



カジュアルに楽しむ  
Jリーグな日々。

あこがれのJリーガーも、ピッチの外では  
やんちゃな少年のような一面をのぞかせる。  
ここでお届けするのは、選手のそんな素顔。  
「なんか、いいなあ」という選手を見つけたら  
スタジアムや練習場に行ってみよう。  
身近でふれあえるのは「Jのある街」だからこそ!

# ファジ★カジ OKAYAMA

選手ファイルNo.58 | Daiki Iwamasa

## 岩政大樹

背番号

35

ポジションDF

1982年1月30日生まれ 山口県出身 33歳

O型 187cm/85kg

岩国高校→東京学芸大学→鹿島アントラーズ→  
BECテロ・ササナF.C.(タイ)

### Onピッチ インタビュー

高さとパワーに加え、的確なボジショニングとラインコントロールで守備を支えるDF。昨年はタイでプレイ。今季岡山に移籍し「新たな挑戦」を続けている。

——サッカーを始めたのは？

島で生まれ育ったので、きちんとしたチームもなく、最初は兄と一緒にボールを蹴ってました。

——チームに入ってから、ずっとDFを？

小学生の時のチームで、監督にDFをやるよう指示されました。僕は体が大きく能力も高い方だったので、「チームが勝つためにCBをしてくれ」と言われました。以来、DFひと筋です。

——岩政選手にとってDFとは？

地味で割に合わないポジションだと思います。勝った時に取り上げられるのはFW。反対に負けた時に一番に矛先が向くのがDF。常に失点の一番近くにいるわけだから、そりゃ苦しいですよ。責任をかぶりたくなければ、ゴール前にはいなければいい。けど、ゴール前にいることがDFとしての果たすべき仕事だし、責任なんです。一番苦しい場所で踏ん張って結果が出れば、少なくともチームメイトはその意味を分かってくれていますから。

失点の確率を0%にするのは不可能なんです。相手がいる競技だし、どれだけ論理的に積み上げていても盲点は生まれる。それを大前提にセオリーを組み立て、失点した

場合にはセオリーを書き換える。その作業を繰り返すのがDFです。大切なのは、セオリーを守っていたか、全力でできていたか、チームメイトとそれを共有できていたか。それらを踏まえて、書き換えるべきかどうかを判断します。

——プロとしてサッカーと向き合うなかで、意識してきたことは？

自分のその時の立ち位置を明確にしていくことです。20代半ばで選手は転機を迎えます。漫然とやっていて上手くなる時期は終わり、自分はこんなもんだと無意識に考えてしまいます。自分には今何が必要か、何かを変えるべきか、変えないほうがよいのか、などを考え続けていかなければ、選手として長くはやっていけないと思います。

——ファジアーノがJ1を目指すために必要なことは？

J1に上がる覚悟があるのか、もう一度問い直すこと。たとえば昇格した時、そのレベルの選手になっていないとクビですよ。プロですから淘汰されるのは当然。ファジアーノは選手を大事にするクラブです。帰属意識の高さや一体感が強みです。でもそれが、ぬるま湯の甘い環境になってはいけません。僕は日々の取り組み、戦い方を示しながら、チームに種を蒔いているつもりですが、そんなに簡単なものではない。でもクラブが進んでいる方向は、間違っていない。いつか必ず花開くと思います。



© 2004 FAGIANO OKAYAMA SPORTS CLUB CO., LTD.

### Onプライベートインタビュー

好きな食べ物は？  
食べられるもの全部。

好きなタレントは？  
ダウンタウン。

好きな女性のタイプは？  
笑顔がステキな人。

好きなアーティストは？  
CHAGE and ASKA。

最近買ったものは？  
本。

おすすめの本は？  
「死ねばいいのに」(京極夏彦・著)。

最近のマイブームは？  
娘の成長。

読者にメッセージを！  
健康第一。